令和 6 年度

事業者番号	0462	事業所番号	046203
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあっては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	埼玉県行田浄水場		
事業所所在地	市区町村	行田市	
	字・地番	大字小針1632番地	
産業分類名(中分類)	36 水道業		
分類番号(中分類)	36		
事業活動の概要	事業内容	事業内容 水道用水供給事業 従業員数 43名 送水量 年間125百万m ³	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	【第3計画期間】基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。(必要に応じて排出量取引を活用する)				
	その他ガス					
エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	64,064	t-CO ₂	事業所区分 第2区分		
	削減目標量(計画期間合計)	16,016	t-CO ₂			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	6,910	6,857	7,083	7,180	

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算 (t-CO₂)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	エネルギー起源 CO ₂	13,411	13,276	13,683	13,865
前年度比 (%)	—	-1.0	3.1	1.3	
その他ガス	非エネルギー起源 CO ₂				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	13,411	13,276	13,683	13,865	

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO₂）CO₂換算 (t-CO₂/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位	0.1084	0.1069	0.1092	0.1107
前年度比 (%)	—	-1.4	2.1	1.4	
活動規模の指標単					
生産量	千m ³ /年	123,701.98	124,139.62	125,354.39	125,261.98

(4) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	浄水場での使用電力量は、送水ポンプの電力が8割を占める。他場工事等に係る応援給水の影響により送水量が増加したため、排出量も増加した。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	次亜注入棟築造工事の完成に伴い、建物の床面積が増加した。併せて次亜注入棟の照明及び消防設備が増設された。なお次亜注入棟内に設置される次亜注入設備については令和4年度以降に完成予定となっている。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	浄水場での使用電力量は、送水ポンプの電力が8割を占める。送水量が増加したため、排出量も増加した。					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	末端受水地点の受水量増加により送水圧力が上昇したことで原単位が悪化し、CO ₂ 排出量も増加した。					
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	16,016	t-CO ₂ /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO ₂ /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO₂)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量 (A)	16,016	16,016	16,016	16,016	16,016	80,080
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率 (B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						64,064
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						16,016
実 績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量 (E)	13,411	13,276	13,683	13,865		54,235
	削減率 (F = (A - E) / A)	16.26%	17.11%	14.57%	13.43%		—
	排出削減量 (G = A - E)	2,605	2,740	2,333	2,151		9,829
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	実施済	未実施		

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	上尾・杉戸系送水ポンプの回転数制御		R1以前	80.0
2	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	LED照明の導入		R1以前	16.0
3	330200	空調設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	高圧ガス設備の気化器温度の適正化【継続実施】	R5	R5	21.0
4	340500	発電専用設備、コージェネレーション設備	34_熱の動力等への変換の合理化に関する措置	太陽光発電設備の維持管理【継続実施】	R5	R5	80.0
5	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	場内照明設備のLED化（管理本館等）	R5	R5	11.0
6	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	上尾・杉戸系送水圧力の低減	R5	R5	347.0
7	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	東松山系送水圧力の低減	R6		52.0
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄